

■地域ぐるみの住民パワーでまちづくりを実践(持続可能なまちづくりへの挑戦)

【度島地区の取組み事例】



【コミュニティバス運営事業】

度島地区では、「島内に公共交通機関が無い」という地域の課題を解決するために平成27年1月7日からコミュニティバスを運行しています。このバスを運行するにあたっては、全住民を対象に意見交換会を開催し、バスの運行、料金、バス停の場所などの意見を聞いて決定しました。現在、1日に4便運行で、平均約10人が乗車しており、ふれ愛センターで行われているミニ・デイサービス事業における利用者への送迎も行っています。



【たくしま大楽開催事業】

昨年まで市主催の「いきいき脳の健康教室」として開催していた事業を、今年度から度島地区まちづくり運営協議会が引継ぎ、高齢者の生きがいづくり、健康増進を目的として、「たくしま大楽」として開催しています。平成27年1月19日から開始し、参加者20人程度、サポーター9人が登録され、毎週月曜日に開催しています。「脳トレ」に加え、新たに体操などを行っており、心身の健康維持にもつながっています。



【グラウンドゴルフ開催事業】

度島地区全住民の健康づくりを目的として、グラウンドゴルフ大会を開催しています。1年間に2回開催し、子どもから高齢者までが一堂に会して約100人の住民が参加し、グラウンドゴルフに没頭するばかりではなく、楽しくコミュニケーションが取れて住民の団結と世代間交流、健康維持に貢献しています。

《度島地区におけるまちづくりの成果》

1. 行政に頼らないきめ細やかな市民活動団体が増加。
⇒①おたからちゃん(延長保育)②つばみっこクラブ(女性の交流)③こいこいクラブ(舞踊)④島のアトリエ(お土産開発)⑤コットンクラブ(手芸)⑥ムービークラブ(映画鑑賞)⑦さつき(健康体操)⑧歌おう会(カラオケ)⑨マルジー会(健康体操)
2. 住民に身近で役立つ事業が少しずつ具現化されている。
⇒コミュニティバスの運行、高齢者対策など
3. 地域課題への素早い心のこもった対応ができるようになった。
⇒集落支援員の配置(地域の巡回、目安箱の設置、住民ニーズの把握、度島新聞の発行など)



★『笑顔と安らぎ』が増え『住民相互の絆の強化』につながっている!★

平戸市からのお知らせ

市では、小学校単位でまちづくり計画の策定に取り組む住民組織に対して、人的・財政的支援を行います。詳しくは、今後地域で行われる説明会にご参加ください。

◎お問い合わせ・地域協働課協働交通政策班 ☎内線2308

始まっています!みんなで進めるまちづくり

本市では、少子高齢化や住民ニーズの多様化などが進み、地域課題を行政施策だけで改善することは難しい状況です。このような中、これからのまちづくりには、住民が中心となって、地域独自の個性や特色を生かす提案が行われ、行政はその提案を支援する取り組みが必要不可欠です。

ここでは、住民が主体となって「持続可能なまちづくり」に向けた取り組みの一例をご紹介します。

■個々の思い、考えを地域の合意へ

住民主体のまちづくりを実現するには、住民一人一人の思いが地域全体の思いとなり、さらに地域全体の合意が必要となります。そのため市では、各地域でのまちづくり計画の策定を推進しています。

【現在の進捗状況】

度島地区:平成25年度策定
大島地区・生月地区・山田地区:策定中

《大島地区》



《生月地区》



《山田地区》



■運営協議会の役割

平成25年度に「度島地区まちづくり運営協議会」が地域住民の皆さんの賛同を得て設立され、試行錯誤しながら2年が経過しました。思い起こせば、平成25年度当初は、度島の将来像などを議論しながら「度島地区まちづくり計画」の策定を行い、平成26年度は、特定非営利活動法人(NPO法人)の法人格を取得し、「コミュニティバス」を運行しました。運行に至るまでは、住民へ意見交換会を行い、住民で「運賃」「運行ダイヤ」「運転手の雇用体系」について話し合い、住民が経営するという意識を高めてもらい「乗り支え」をお願いしました。

今年度からは、度島中学校の1、2年生を対象に、「度島まちづくり塾」を開催しています。これは、中学生の時に、自分が生まれ育った度島の良い所や地域課題を再認識し、まちづくりに参加しながら、地元への愛着を深め、将来、度島に住んでもらうことで人口減少の緩和に寄与してもらおうと計画しました。

これからは、地域をあげて楽しみながらまちづくりに取り組み、住んで良かったと思う度島地区をつくり上げていきたいと考えています。



特定非営利活動法人
度島地区まちづくり運営協議会
理事長 石田達美さん